各国コードカッティングの実態（下）

多ch市場縮小する日米

新分野の成長で先行きに明るさ

独は有料放送に伸びる余地

★韓国とドイツは拡大

コードカッティングの要因は、各国で異なる。例えば、有料多チャンネル市場は日本および米国で縮小しているが、韓国およびドイツでは拡大している。

日本では、「有料多チャンネルサービスを利用しない」、米国では「料金が高い」「チャンネル数が多すぎる（見ないチャンネルへの無駄な支払い）」といった声が多い。そのような中、安価で複数のデバイスで視聴可能なOTTが登場し、契約を移行していることが1つの傾向として見られる。

一方、ドイツでは現時点でコードカッティングが起きているとは断定できない。CATVの契約者が微減した要因としては、先にデジタル化を完了した衛星放送にシェアを奪われているとの情報がある。

韓国では、通信事業者が提供するIPTVの加入者獲得が著しく、新規の有料多チャンネル加入者およびCATV事業者の加入者まで奪っている。

IPTVはUHDなどのコンテンツを提供し、09年のサービス開始から16年末で、年率33・6％で成長している。

またそのIPTVを提供する通信事業者のインターネットサービスも高速なため、CATV事業者は、通信分野でも加入者を取られている。

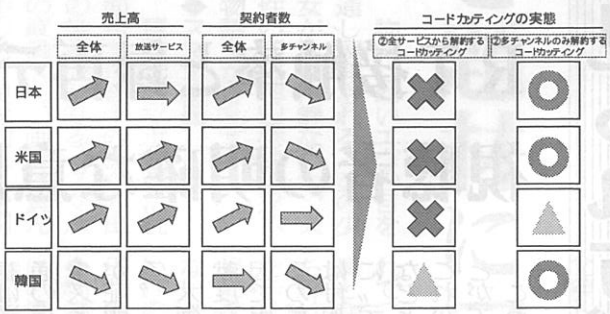
★事業シフト

日米独では、すべてのサービスを解約するコードカッティングが起きる前に事業をシフトできているため、有料放送サービス離れによる影響は限定的である。

有料放送サービス市場が縮小している日本、米国におけるCATV事業者は、通信分野などの新たな分野での成長を継続できれば、その先行きは明るいと思われる。

それとも通信事業者との競争に勝つのか、ケーブルインフラを活用して斬新な方向転換をするのか、その行方をフォローしていきたい。

（大原吉惠／コーポレイトディレクション副査、監修：奥村文隆／同パートナー）



コードカッティング実態調査のまとめ表

ドイツも衛星事業者のサービスとの差別化を図れば、有料放送サービスもまだ伸びる余地はあると考えられる。

韓国では、すべてのサービスから解約するコードカッティングが起きるのか、